

県立古河第一高等学校 (定時制) 令和 7 年度 自己評価表

目指す学校像	目指す学校像 校訓「高潔至誠 質実剛健 協同自治」の精神を基盤に、確かな学力と豊かな心を、健康やかな体を育て、生涯にわたって学び続けながら、社会の変化に対応して創造的にキャリアを形成し、地域の中核となつて活躍できる人材を育成する。	重点項目	重点目標	達成状況
目指す学校像	・基礎基本の学び直しの指導に重点を置き、学び楽しさを実感させる。 ・令和6年度卒業生は9名、内訳は就職6名、未定者3名であった。生徒全員の進路希望を実現するため、情報収集や適切な進路指導に努めたい。 ・単位修得を意識させ、生徒理解に基づく個に応じた指導を引き続き行う。 ・生徒の基本的な生活習慣の確立を図り、遅刻者を減らす。また、服装・頭髪の乱れに関して、自己を振り返り社会人としての意識改革を図る。 ・規律ある落ち着いた学校生活を送っている生徒が多いが、さらに、集団の一員としての自覚、規範意識の高揚を図るための指導を展開する。 ・キャリアパスポートの運用方法について校内の共通理解を図り、積極的な活用をする。	・昨年度の成果と課題 ・学力の向上と授業の継続 ・授業改善の推進	①雇用主や家庭との連絡を密にし、生徒の欠席・遅刻を未然に防止して学習の継続を図るとともに、授業を放棄させないよう努力する。 ②基礎・基本を丁寧に指導することで、毎時間の授業の理解度を高める。また、ICTの利用等を通して生徒の興味関心を高め、生徒の学びを引き出せるよう、授業の改善に努める。 ③生徒が主体的に学習に取り組む態度を養えるように、教科横断的な学びを意識した教材研究や研修を活用して、それぞれの教師が授業力の向上に努める。 ④ICT機器(タブレット、電子黒板等)の利用方法について習熟し、授業での効果的な活用を目指すとともに、自分の考えを他者に正確に伝えられるような力を養えるように授業の改善を積み重ね、生徒のプレゼンテーション能力の向上を目指す。 ⑤授業満足度(KPI)「生徒による授業評価」の最終評価において授業満足度の平均値が3.2以上となることを目指す。 ⑥家庭や職場と情報共有により生徒の実態を把握し、生徒を取り巻く環境の理解を深めながら、教師と生徒のよりよい人間関係に基づいた生徒支援を行う。 ⑦学校生活を通じて、教師と生徒との信頼関係を築き、何事でも相談できる雰囲気づくりを進める。	B
	・開かれた学校・課程を目指し、ホームページや各種通信、学校説明会等の充実を通して、保護者や地域へ適切な情報発信を行うとともに、中学校訪問や学校評議員会、PTA活動等を通して情報収集に努め、さらに開かれた学校づくりを進める。	・開かれた学校づくりの推進	⑧潜在的ないじめや非行の早期発見に努め、未然防止と指導の徹底を図る。 ⑨安全教育に努め、事故の未然防止を図る。 ⑩粘り強い指導を通して、怠学からくる遅刻・欠課・早退などを減少させ、生活習慣の確立を図る。 ⑪学校給食におけるマナーを身に付けさせる。 ⑫学校給食を通して食生活の大切さを認識させ、健康な身体づくりを推進する。 ⑬食育や健康教育に取り組み、生涯にわたって自ら健康を維持できる実践力を育む。 ⑭部活動の奨励により、心身共に健康な生徒を育成する。 ⑮定通教育振興会との連携や支援により、教育の日の行事などの教育活動を積極的に公開する。 ⑯外部講師による授業等の機会を積極的に設け、地域社会との連携を図る。 ⑰勤務時間を遵守し、最終退勤時間を22時とする。 ⑱校内サーバーや教育情報ネットワークの活用により、情報共有の効率化を図る。 ⑲衛生委員会を中心に、職員間で働き方についての工夫を提案し、実践につなげる。 ⑳各種行事の精選を図る。	B
目指す学校像	・開かれた学校・課程を目指し、ホームページや各種通信、学校説明会等の充実を通して、保護者や地域へ適切な情報発信を行うとともに、中学校訪問や学校評議員会、PTA活動等を通して情報収集に努め、さらに開かれた学校づくりを進める。	・健康管理と体力増進 ・開かれた学校づくりの推進 ・「働き方改革」の推進	⑮定通教育振興会との連携や支援により、教育の日の行事などの教育活動を積極的に公開する。 ⑯外部講師による授業等の機会を積極的に設け、地域社会との連携を図る。 ⑰勤務時間を遵守し、最終退勤時間を22時とする。 ⑱校内サーバーや教育情報ネットワークの活用により、情報共有の効率化を図る。 ⑲衛生委員会を中心に、職員間で働き方についての工夫を提案し、実践につなげる。 ⑳各種行事の精選を図る。	A
	・開かれた学校づくりを進める。	・「働き方改革」の推進		A

三つの方針		具 体 的 目 標		評 価		次年度(学期)への主な課題
「三つの方針」(スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」(グラデュエーション・ポリシー)	基礎的な学力と豊かな心、健やかな体を育て、主体性や社会性を身に付け、社会の一員として貢献できる人材の育成を目指す。		B		社会に出て、生かせるような基本的生活習慣の確立。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラム・ポリシー)	望ましい職業観・勤労観を育成し、生徒一人一人の多様な進路希望を実現する教育課程を実施する。		B		アルバイト等で一定程度勤労観を身につけてつづけるが、半分程度の生徒は、アルバイト等の経験がない。
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミSSION・ポリシー)	中学校で学習した内容を基に、高等学校での学習内容を深め、協働しながら卒業に向かって努力できる生徒を受け入れる。		A		事前に個別の学校見学や、学校公開日の授業見学等をした上で、受検をしている。
評価項目	具体的目標	職員間の情報共有を密にして連携を図り、授業に真剣に取り組む意識を高める。①		評 価		次年度(学期)への主な課題
教科指導	授業を第一とする意識向上を図る。	②		A		A
	生徒の基礎学力の向上に努める。	③④		A		
		②		B		
		③		B		
国語	基礎学力の向上を図る。	④⑤		B		B
	わかりやすい授業展開に努める。	敬語等、一般常識として必要な言葉への理解を深め、実際に使えるようにする。②③		B		
	進路実現に向けた指導を充実させる。	「書くこと」、「話すこと」を通して自己表現できるような授業展開に努める。②③		B		
		教科書を補完し、定時制生徒の実態に則した教材研究に努め、授業で活用する。②④		B		
地歴	基礎学力の定着と向上を図る。	電子黒板を利用した視聴覚教材を効果的に取り入れ、生徒の学習意欲を向上させる授業の実践に努める。②⑤		B		B
	地理や歴史への興味・関心を高め、学習に取り組み意欲の向上を図る。	※今年度開講なし(2学年設定の公民は次年度開講)。				
公民		独自のプリントを作成し、必要に応じてICT機器を活用しながら、基礎・基本の徹底に努め、きめ細やかな指導を行う。				・生徒の能力に対応できるように授業プリントを作成し工夫をしていく。 ・ICT機器などを活用し、効率的かつわかりやすい授業の工夫をしていく。
数学	基礎学力の定着と向上を図る。	④⑤		B		B
	わかる喜びを実感する授業への改善に努める。	④		B		
理科	基礎学力の向上を図る。	②③		A		B
	自然現象への興味をもたせる。					

教科	単元	学習目標	評価	学習活動	学習成果
保健体育	生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにするため、基本的な技術を身に付けさせる。	②③	A	バランスよく種目を配分した年間計画を作成し、基本的な技能を身に付ける。	・生徒が自ら進んで運動に取り組む姿勢を身につけられるように助言していきたい。 ・日常生活と健康の関わりについて理解を深めさせたい。
	健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図る。	③⑤	A	複数の種目を選択・履修させることで、進んでスポーツに取り組む環境をつくる。	
芸術	基本的な学習習慣を定着させる。	④	B	ウォーミングアップを個人ないしグループで考え、主体的な取り組みをさせる。	
	情操教育を充実させる。	③⑤	B	生徒の実態に合わせてスポーツテストに取り組み、結果が前年を上回ることを目指す。	
	基礎・基本的学力の定着を図る。	⑫⑬	B	食生活の見直しを行い、健康の保持増進に効果的な食事の在り方を考えさせる。	
	コミュニケーション能力を育成する。	②	A	毎時間の授業を大切にすることを習慣を身に付けさせ、学習の内容の定着を図る。	
外国語	基礎・基本的学力の定着を図る。	③⑦	A	生徒個々の感性や情懷を育てる学習環境を整備し、作品づくりを通して感性を養う。	
	基礎・基本的学力の定着を図る。	③⑤	B	他者の作品を鑑賞したり、評価することを通して、鑑賞する能力の向上を図る。	
	基礎・基本的学力の定着を図る。	②③	B	学び直しの時間を設け、ゆとりある授業展開をする。	・様々なレベルの生徒に対応できるように教材（プリントなど）への工夫をしていく。 ・ICT機器なども積極的に活用し、効果的かつわかりやすく授業を進める工夫をしていく。
	基礎・基本的学力の定着を図る。	②④	A	プリントやICT機器等を活用して、繰り返し指導を行う。	
家庭科	基礎・基本的学力の定着を図る。	②	B	英語の音声面の指導を積極的に行う。	
	基礎・基本的学力の定着を図る。	③④⑤	B	教科書の例文を利用して、簡単な英文がでできるようにする。	
	基礎・基本的学力の定着を図る。	③④⑤	B	学力差に応じ、個々に対応した指導を行う。	
	基礎・基本的学力の定着を図る。	③④⑤	B	学習目標を明確化し、主体的に学ぶ態度を養う。	
情報	基礎・基本的学力の定着を図る。	②	A	家庭・家族の意義や社会との関わりについて理解し、男女平等や協力について認識させる。	
	基礎・基本的学力の定着を図る。	②③	A	子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉について理解させる。	
	基礎・基本的学力の定着を図る。	②③	B	消費者の権利と責任などについて理解させ、消費生活の課題について認識させる。	
	基礎・基本的学力の定着を図る。	③	B	生活設計の立案を通して、生涯を見通した自己の生活について主体的に考えさせる。	
商業	基礎・基本的学力の定着を図る。	②	B	ICT機器の活用を通して、他の教科でもIT活用ができるような能力の育成を目指す。	・生徒の実態に柔軟に対応し、情報技術を活用した問題の発見・解決に資するよう丁寧な個別指導と全体的指導の両方を図る。 ・ソーシャルメディアの活用と注意点を注いで正しく理解できるように注意深く指導していく。
	基礎・基本的学力の定着を図る。	②	B	実習を通して徒の知識や能力を把握し、個別指導や補習等を実施し能力の向上を図る。	
	基礎・基本的学力の定着を図る。	②	B	正しい情報の発信や収集方法を知り、情報リテラシーを身に付ける。	・生徒の実態に柔軟に対応し、簿記については実社会に即して体系的に理解し、関連する技術や知識を身に付けさせる。ビジネス実務については、経済社会で生活していく上で必要な知識・技能を身に付けていくことを意識して指導する。
	基礎・基本的学力の定着を図る。	②	B	簿記に対して興味・関心をもたせ、基本的な仕組みについて理解させる。	
商業	基礎・基本的学力の定着を図る。	②	B	ビジネス基礎や実務に関する基本的な知識を身に付ける。	
	基礎・基本的学力の定着を図る。	②	B	練習問題や過去問題の反復練習を行い、検定試験合格の実力をつける。	
	基礎・基本的学力の定着を図る。	②	B	練習問題や過去問題の反復練習を行い、検定試験合格の実力をつける。	
	基礎・基本的学力の定着を図る。	②	B	練習問題や過去問題の反復練習を行い、検定試験合格の実力をつける。	

教 務	授業実施時数の確保に努める。	年間行事計画を推敲する中で行事等の精選をするとともに、授業の工夫と質の向上に努める。	②⑤⑦	B	B	古河一高の定時性というスタイルを確立し、外部への発信に努める。多様な生徒に対応していく学校行事を考察していく。
	授業公開相互参観等の校内研修の機会充実を努める。	授業の開始・終了の時間を厳守する。	⑥⑩	A		
	教育活動の公表と開かれた定時制の実践に努める。	相互授業参観を実施し、授業力の向上を図る	③④⑤	B		
		学校ホームページ、授業参観・学校説明会等の機会を活用し、教育活動の公開に努める。	⑮	B		
		保護者、中学校教員、中学生、定通教育振興委員会を対象に、年2回授業参観、懇談会を企画・実施する。	⑮	A		
生徒指導	遅刻者の減少に努める。	保護者との情報交換を密にし、基本的生活習慣の確立をめざす。	①⑥	A	B	・学校行事も含めて欠席・遅刻・早退を減らすとともに、学校生活全般を通して、規則を遵守する意味や意義の理解を図る。
	非行の早期発見に努め、未然防止と指導の徹底を図る。	薬物乱用防止講演会を通して、薬物使用による人体への影響を理解させ、その予防を図る。	⑨	A		
		学校生活全般を通して、規則を遵守する意味や意義の理解を図る。	⑩	B		
		儀式的行事だけでなく、講演会や集団行動の際には正装を徹底する。	⑩	B		
	いじめに関して、学校いじめ防止法に基づき、いじめ防止に努める。	学校いじめ防止基本方針に示す評価規準に照らし、いじめに関するアンケート調査を行い、早期発見、事態把握及びいじめに対する措置を適切に行う。	⑧	B		
保 健	安全教育を進め、事故の未然防止に努める。	交通安全教育を実施すると同時に、登下校指導を定期的に行う。	⑨	B	B	安全点検の結果、備品の劣化や防護の面で気になる点があった。環境の整備に向けて取り組んでいきたい。
	健康の保持増進のための一連の検査を円滑に実施する。	生徒の通学手段を把握し、必要に応じた適切な指導を行う。	⑨	B		
	心の健康教育、性教育など生徒の健康教育を推進する。	体位測定、内科検診、歯科検診、胸部検査、心臓検査、尿酸検査等の法定諸検査を、職員及び保健関係機関、学校医の協力を得て計画的に実施する	⑬	A		
	学校環境衛生の安全確保及び学習活動に適切な環境の維持向上を図る。	保健所、県関係諸機関、医療機関、スクールカウンセラー等と連携を図り、生徒の心身の健康の保持増進を図る。	⑦	A		
		定期的環境検査及び安全点検を実施し、校内の教育活動に適した環境の整備及び保持を図る。	⑨	B		
進路指導		関係機関や自治体と連携し避難訓練を行い、住んでいる地域の防災意識を高める。	⑨	B	B	進路希望や配慮に応じ、きめ細かい指導に努めたい。
		食事前の手洗いを励行し、食事のマナーを身につけさせるとともに、自らの健康を維持する食習慣を養成する。	⑩⑫⑬	B		
		生徒面談、家庭との連携を軸に進路実現に向けた信頼関係の向上を図る。	⑥⑦	B		
		進路希望に応じ、適切な助言と支援の実践に努める。	①⑥	B		
		進学・就職実績や、本校定時制に理解のある学校・企業を中心に積極的な進路開拓を行い、卒業予定者全員の進路実現に向けた進路指導に努める。	①⑥⑦	B		
特別活動	生徒の自主性と協調性を養う。	各種学校行事を生徒主体で企画・運営させ、円滑な実施ができるように指導・助言する。	③⑦	A	B	・生徒一人一人が各行事、委員会活動を通して、自主的に取り組む姿勢を育むように助言していきたい。
	豊かな充実した学校生活を送る環境整備を図る。	各種委員会の生徒を中心に、委員会活動を行う。	③⑦	B		
		生徒が部活動に積極的に参加できる環境をつくる。	⑭	B		
		奉仕活動や災害ボランティアなどを通して、社会性を育む。	③⑦	B		
	キャリアパスポートの活用について。	自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自己評価を行うとともに、自己実現につながるものとしてキャリアパスポートの活用を通して、自己肯定感を涵養させる。	③⑦	B		

	生徒、保護者と連絡を取り合い、無断遅刻・欠席を減らすよう努める。	⑥⑩	B		休み時間や行事で移動が遅い生徒がいれば見られる。HRや授業の時間に間に合うように行動することも含めて、継続的に声かけをする必要がある。また行事の出席率を向上させるためのはたらきかけも考えなければならぬ。
第1学年	生活習慣を確立させる。 基礎学力の向上を図る。	⑥⑦⑧ ①	B B B	B	
	進路に向けて意識を持たせる。	⑦	B		
	基本的な生活習慣の確立。	⑧⑨⑩	B		
第2学年	学校行事への主体的な参加。 進路実現に向けた準備をさせる。	①⑥ ⑦⑭ ⑥⑦ ⑥⑩ ⑥	B B B B	B	・定時制の軸となる学年に進級することの自覚と学校行事への主体的な参加を促したい。 ・進路を意識した学習活動の定着や欠席の減少化を図りたい。
第3学年	生活習慣の確立と学習意欲の向上を図る。 自己実現を達成するために、進路意識の涵養を図る。	①⑥⑪ ⑦⑭ ⑥⑦ ⑥⑦	B B B B	B	・次年度の進路実現に向けて自己分析をしつかりさせ、面接試験に対応できるようにする。またL・HRなどでSPII問題に取り組ませ、一般教養を高めておく。
第4学年	社会人として必要な学力・マナーの定着と意識の向上を図る。 学校行事への参加意識を高揚させる。 明確な進路希望や自己理解の先にある進路実現を図る。	②⑩ ⑥⑩ ⑥⑦	B B B	B	・最上級生に相応しい行動がとれる様に指導し、基本的なマナーを身に付けさせたい。 ・生徒の進路への準備の進行状況などを確認し、滞りなく次のステップを踏めるように主体的な行動を促したい。
開かれた学校	地域や保護者に情報を発信する。 広報活動を推進する。 学校関係者との連携を密にする。	⑮ ⑮ ⑮⑯	A A B	A	・同窓会やPTAにも広報をしていきたい。
働き方改革	業務の見直しと業務時間の平準化に心掛ける。 情報共有の効率化に努める。 職員の意識高揚と実践の具体化を図る。	⑰ ⑱ ⑲	A A B	A	職場環境アンケートで出された課題の解消が未だ十分ではない。

※評価基準: A:十分に達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない